

登録記念物の登録

《登録記念物（遺跡関係）の新登録》 1件

1 穂積橋【愛媛県宇和島市】

穂積陳重（安政2年〈1855〉—大正15年〈1926〉）は宇和島藩士穂積重樹しげきの次男として生まれた。日本初の法学博士，民法・戸籍法の編纂に尽力した。晩年には枢密院議長を務め，男爵となった。郷土愛も強く，宇和島市政や教育にも寄与，郷党の敬慕の的であった。著書に『隠居論』『法窓夜話』『法律進化論』などがあり，「法学の祖」「民法の父」と言われた。宇和島市民は氏の功績を記念すべく，銅像の建立を申し出るが，「老生は銅像にて同郷萬人に仰ぎ視らるゝよりは 橋となって公衆に履んで渡らるゝを以て無上の光栄とす」と固辞。氏の没後，木橋であった二級河川辰野川たつのがわの本開橋ほんかいばしの架け替えの際，県の許可を得て，市が「穂積橋」と命名したものである。欄干親柱おやばしらの名称板に「穂積橋」，「ほつみはし」とあり，また「昭和五年二月架設」とある。現在の穂積橋はRC桁橋で，長さ9.1m，総幅員7.9m，欄干の高さ0.9mを測る。

その北東に隣接する小公園は，市民有志から寄贈を受けた石碑の設置場所として，平成4年に宇和島市が開設したものである。穂積橋と小公園を登録記念物に登録し，穂積陳重の人柄と業績を偲び，後世に伝えるものである。

《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 1件

1 平田氏庭園【福岡県小郡市】

平田氏庭園は筑後川支流の宝満川の右岸，小郡市の中心部に位置する。平田氏は江戸時代から小郡に居住し，明治以降，木蠟業や金融業で財を成した。

庭園は，昭和初期には現在の形に整備されていたと考えられ，作庭は佐賀県鳥栖市の庭師松尾仙六せんろく（1889—1961）の手による。

南北に細長い庭園の東西南北には，主屋，客殿，新座敷，座敷などの建物が建つ。座敷の縁先付近からは，緩やかに流れが伸び，園池に接続する。流れが園池へと注ぐ部分の上には太鼓橋が架かり，その向こうには園池と巨大な滝石組が見える。滝石組は幅が約8m，高さが約4mあり，複数の巨岩から構成されている。用いられている巨岩は，運搬のために細かく分割され，当地で元のようにつなぎ合わされたものである。ほかにも随所に大ぶりの景石を配し，南北方向と東西方向に飛石が打たれている。植栽はマキを中心に他にマツ類，モミジ類などを配する。

平田氏庭園は建物を含む空間構成がよく保存されており，九州地方の造園文化の発展に寄与した意義深い事例と言える。